

「ウサヒ、大谷風神祭を学ぶ」

「ウサヒ、大谷風神祭を学ぶ」

朝日町の大谷地区の人々は 8 月に入りお盆が過ぎると目の色が変わる…

「大谷風神祭」が近いからだ。

日記「ウサヒ、大谷風神祭へ行く」を是非ご覧ください。

大谷風神祭は江戸時代からおよそ 250 年続くまつりであり、毎年必ず 8 月 31 日に行われる。



大谷風神祭で演じられる県無形民族文化財指定『角田流大谷獅子踊り』

今年は大雨に見舞われましたが、無事すべての地区が演し物(だしもの)を行いました。

大谷風神祭は宝暦年間(1751年～1763年)に3、4年続けて大暴風が襲来し、米の不作により餓死者が相次いだことから、風水害を鎮め、豊作を祈願したことがまつりの由来とされています。

そしてかねてよりこの歴史あるまつりの意義を捉え直したいと考えていた朝日町エコミュージアムの面々は、大谷風神祭シンポジウムを企画したのである。



おもにこの方が。

ハチ蜜の森キャンドルの安藤竜二さん、朝日町エコミュージアムの案内人でもある。

そんなエコミュージアムと大谷地区の方々の想いのこもったシンポジウムは

平成 25 年 9 月 29 日に峯檀公民館(大谷第五区集会施設)で行われ、ウサビの弟子が参加してきました。



シンポジウムには70名ほどが駆けつけ公民館は満員



シンポジウムの真ん中を飾ったのはなんと師匠桃色ウサヒ



白山神社で見つかった笙 神事に使用したものと思われる。

楽器屋さんによると、蒔絵も入っている素晴らしい立派な笙で、相当吹いている痕跡があるとか。この笙を目当てに遠方からこのシンポジウムに来られた方もいらしたそうです。



菊池和博氏(東北文教短期大学教授)の基調講演

菊池氏は山形県東根市にお住まいだそうです。

東根市の風神祭(村山地方では各地で8月31日頃風神祭を行っていました。)と比較しつつ大谷風神祭の歴史や位置づけ、他地区との対比など熱心にお話しされました。



後半はパネルディスカッション

熱弁をふるわれたのは大谷風まつり実行委員長の白井淑浩大谷連合区長。

白井さん「今のまつりは人(の都合)に合わせて行われている！ 月 日に一番近い日曜日に行く祭りもその一端。大谷風神祭は二百十日の意義を大切に、平日だろうと必ず8月31日に行く！」

弟子「二百十日の意義・・・？」

解説【立春から数えて二百十日目は9月1日にあたる。その日からよく台風が来るということで、その前日に前もって秋の稲刈りまで風や雨、洪水などの災害がないように風神、氏神様に祈る祭典が大谷風神祭。】

弟子「なるほど。確かに8月31日に近い日曜日とかに風神祭やるってなったらまつりの意義が薄れてしまうかも...」



シンポジウムはパネリストの方々の風神祭への熱い想いと笑顔を地区の方々と共有しました。

子どもから大人からお年寄りまで地区の方々が一丸となって取り組む大谷風神祭。

それは義務的なものではなく、伝統への誇りとまつりの楽しみから地区の方々自身が

毎年作り上げ、繋いでおり、また他の地区の方々も楽しみに見守っている朝日町の

貴重な無形文化財です。朝日町を離れてしまった若者も、この日だけは休みをとって

戻ってきたり、演し物のために一週間会社を休んだりして風神祭に熱狂します。

朝日町エコミュージアムではこの大谷風神祭に関して沢山の資料を

インターネット上に記載していますので、興味をもたれた方はご覧下さい。

大手の会社が企画したわけでもなければ、役場の企画でもない。

このまつりに力を入れて金銭的に得をするわけでもない。

純粹に伝統を守り、地区の方々自身が楽しみ、お客さんも沢山集まる。

この大谷風神祭の良さをウサビの弟子は今後も発信していきたいと思います。

